

22

7月2018

【連載】母と私たちの、初めての在宅ケア

## 快適な療養生活を 支えてくれる様々な職種の方々 ～連載⑨

文責: がん・バツテン・元気隊 運営委員  
大山 薫

全5ページ

在宅ケア生活では、お医者さんや看護師さん、薬剤師さん、理学療法士さん、MSW(医療ソーシャルワーカー)など医療の分野の方と、ケアマネさん・福祉用具の業者さん、訪問美容師さんなど福祉分野の方などいろんな職種の方々が連携して母の在宅療養を支えてくれます。

### 訪問美容師さんに髪をカットしてもらい、 気分もさっぱり 5月中旬



在宅生活を送り、病院以外はめったに外出しない母ですが、やはり身だしなみは気になります。髪が伸びてくると、そろそろ髪を切りたいと言います。これを訪問看護師さんに相談すると、訪問美容師さんを紹介してくださいました。

初めて、2月に訪問美容師さんに髪を切ってもらった時は、椅子に腰掛けていましたが、5月にお願いした時には、母は酸素チューブをして、介護ベッドからの移動も

きつくなっていた為、美容師さんにお願いをし、介護ベッドに座り、背にもたれたままの状態でもらいました。切った髪の毛が周りに落ちないように、大きなケープを掛けて上手にカットされます。

体調がおもわしくない母のために、短時間でお願いしました。鏡で母に仕上がり具合を見せながら、長さの好みなども聞き、丁寧に仕上げてくれたので、母はとても綺麗になったと喜んでいました。そのあと、私が顔そりや眉毛の手入れもしてあげました。そのおかげで、訪問看護師さんや、二ノ坂先生が母を見て、「あれ、何かこざっぱりして綺麗になっているね」と言って下さったので、「顔も髪も綺麗にしてもらって、自分が病人ではないみたい。美人になったよと褒めてもらって、嬉しくて自然に笑顔が出た」と、大変嬉しそうでした。

母が、自分と同じような状況の患者さんに、ぜひ訪問美容師さんを紹介したいと言いますので、お名前、写真の掲載を了承していただきました。

「ひらお訪問看護ステーション」より紹介して頂いた、

かくた まさみ

訪問美容師 **ビショップ 角田 理美さん**

福岡市南区大橋 1 丁目 1 2 - 1 8 美容室 claim (クライム) 内

在宅訪問美容の問い合わせ連絡先 携帯番号 0 9 0 - 8 2 9 6 - 2 6 2 9

・カット 3,000 円・シャンプー・カット 4,000 円

・パーマ(カット込み) 7,500 円・カラー・カット 7,500 円

※ 出張料・～5 km 1,000 円・～1 0 km 1,500 円 平成 30 年 7 月現在

時間や曜日・訪問可能かどうか等、直接角田さんへお問い合わせ下さい

じょくそう

褥瘡悪化のため、

エアーマットに交換して、痛みが楽に。5 月中旬



ベッドの上での生活が長くなり、お尻の褥瘡<sup>じょくそう</sup>が悪化して痛みが出てきたため、体圧を分散させるエアーマットレスに交換してもらうことになり、訪問看護師さん、福祉用具(ウェルファー・ケア)会社の方、総勢 6 名もの方が一緒に訪問されました。

母の大好きな福祉用具(ウェルファーケア)のスタッフさんが、「警子さん、大丈夫ですよ」

と優しく声をかけてくれます。エアーマットに空気を入れ、あっという間にマットの交換を終え、体圧分散マットに横になった母は、「お尻の痛みが和らいだ、もう痛くない、良かった」と、ほっとして笑顔を見せてくれました。

訪問看護師さん紹介の福祉用具(ウェルファー・ケア)さんは、母が在宅生活を始めてから少しずつ不便になる生活を快適に過ごせる様にと、いろいろ相談に乗っていただき、こちらの要望にも素早く対応してくれます。

帰られる時にはいつも、「警子さん、いつでも遠慮なく連絡して下さいね」と、優しく声をかけて下さり、とても有り難いです。母は、自分の知り合いで福祉用具が必要そうな方がいれば、必ず(ウェルファー・ケア)さんの事を紹介し、また自慢の息子のように話しています。

にのさかクリニックの医療ソーシャルワーカーさんより紹介された、  
「ひらお訪問看護ステーション」

福岡市中央区平尾2丁目17-20 グランド平尾107号  
092-523-3931

「ひらお訪問看護ステーション」より紹介された、  
福祉用具レンタル・販売・住宅改修株式会社ウェルファア・ケア 担当 中村 臣さん

筑紫郡那珂川町中原5丁目51  
092-555-6331

※介護保険を利用の場合はケアマネさんからの依頼になりますが、  
自費購入出来る商品、用具は直接連絡して購入出来ます。

## 緩和ケア病棟について相談する 3月下旬

3月末に、にのさかクリニックのソーシャルワーカーさんと、少し早めに緩和ケア病棟について相談しました。

実は、姉がすい臓がんで亡くなった時、緩和ケア病棟についての検討が遅かったため、入院が必要になった時に入院出来ず、自宅で容態が悪くなり救急車を呼んで緊急入院になりました。その際は、治療をしていた大学病院に応急処置的に入院できましたが、結局緩和ケア病棟への転院が間に合わず、そのまま大学病院で亡くなりました。

私も母も、その事をとっても残念に思っていたので、検討だけは早めにしておこうと、ソーシャルワーカーさんに相談しました。

最後まで在宅ケアで、というのが母の一番の希望ですが、そうはいかない事情が生じるかもしれません。

1. 母自身が、痛みで体が辛く在宅生活に不安を感じるようになった場合
2. 私や父が、体調不良や入院、又は私用で不在、などの場合
3. 在宅介護者のレスパイトケア(介護者の精神的、身体的負担の回復)

そんな事態に備えて、もしもの時には母が緩和ケア病棟に入院できる準備をしておく事を、母はきちんと理解、了承し、私の判断にまかせると言ってくれました。

にのさかクリニックのソーシャルワーカーさんから、市内8ヶ所の緩和ケア病棟を教えてください、その中から、候補を①『両親の自宅近く』、②『私の自宅近く』の2ヶ所にしぼりました。二ノ坂院長に診療情報提供書を書いて頂き、ソーシャルワーカーさんに面談の予約を取ってもらい、4月13日と20日、私だけですが面談に行ってきました。

面談では、緩和ケア病棟担当医師と担当看護師さんが母の情報提供書を確認しながら、現在の母の状況や母の希望などを聞かれました。また、緩和ケア病棟についての説明や、病棟の案内、利用について詳しく教えて頂きました。どちらにするか迷ったのですが、②『私の自宅近く』の緩和ケア病棟を選びました。

選んだ理由は以下の通りです。

1. 私の自宅から近いので朝も晩も通うことができる
2. 各病室が広く、家族が側で過ごす為の十分なスペースがあり、長ソファで泊まる事も出来る
3. 遠方から来る親族でも宿泊出来る部屋が借りられる

とにかく、緩和ケア病棟に入院しても、母の側に父か私、または他の家族がゆっくりと一緒に過ごせるという事を最優先して選びました。その後、②の緩和ケア病棟の担当者に電話をし、入院が必要な際はお願いしたいとお伝えしました。

## 母からの聞き書き 5月中旬



### 「お父さん、ありがとう。今が一番幸せ」



4月中旬に、介護ベッドを私の寝室からリビングに移しました。それまでは何とか自力でベッドからトイレまで行けましたが、だんだん一人での移動がきつくなってきました。二ノ坂先生からの助言もあり、お父さんの寝室横のリビングへ介護ベッドを移して、



リビングでの生活が始まりました。ベッド横に置いてある酸素発生装置から鼻にチューブで酸素を送っています。

薫ちゃんが帰った夕方から翌朝までは、お父さんが私の世話をしてくれます。移動が辛くなっているので、食事の準備から後片付け、トイレの介助もしてくれます。介護ベッドに横になりお父さんの寝室の方を見ると、布団で横になっているお父さんと目が合い、「大丈夫や？」と声をかけてくれます。私が起き上がる気配に気づいた時は、寝ていてもすぐに起きてきてトイレの介助をしてくれます。紙パンツの上げ下ろしを手伝い、用足しが終わるまで待ってくれ、私が痛がっているお尻や腰をさすってからまたパンツを履かせてくれます。ベッドに戻る際も足を上げてくれ、足をマッサージして布団も掛けてくれます。そして、「もう他は大丈夫や？」と聞いてくれます。

この前は、大便が間に合わず粗相をしてしまい、トイレで困り果ててお父さんと呼びました。その時も何も言わずに私をお風呂場まで連れて行き、黙ってお尻を洗い、後始末をしてくれました。お父さんもきついのに、一生懸命に私のお世話をしてくれとても有り難いです。夜中に何度もトイレに起きる私に、嫌な顔もせず黙って手伝ってくれるお父さん、「迷惑かけるからもう緩和病棟に入院した方が良いと思う」と私が言うと、「良かよ、自分が最後まで世話するけん、大丈夫。」と言ってくれました。とても感謝しています。

寝る前にお父さんの両手を握り、「今日も一日ありがとうございました。また明日もよろしく願います。」と伝えます。今が一番幸せ。

(つづく)



福岡がん患者団体ネットワーク

がん・バッテン・元気隊

電話 090-9591-7469 (10:00~22:00)

FAX 092-873-2372

E-mail <http://ganbatten.info/contact.html>